

## 環境学習について

### ①京都市立紫明小学校

総合学習「鴨川環境学習」 (6月18日)

総合学習「鴨川の水質、水生生物調査」 (7月 5日)

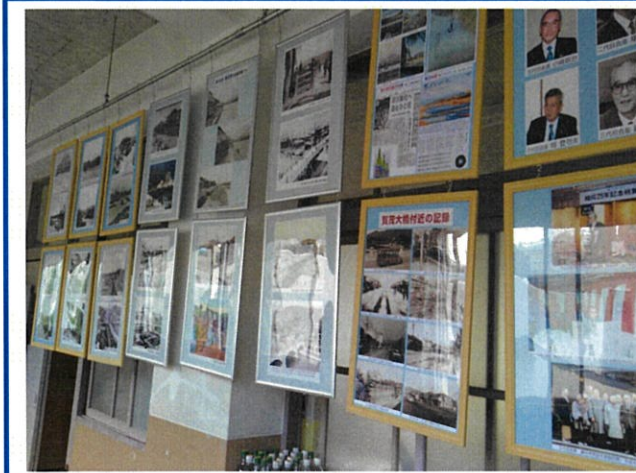
### ②京都市立第四錦林小学校

鴨川清掃 (11月19日)

総合学習「鴨川環境学習」 (11月26日)

鴨川環境学習 紫明小学校(四年生)6月18日(火)

半世紀の写真展示 6/17(月) ⇒ 26(水)





鴨川北大路橋下左岸集合風景



八木講師(京都自然教室)による説明



採取風景：北大路橋上流左岸側



採取風景：北大路橋上流左岸側



採取した水や生物の調査をする子どもたち



水質調査用のパック試薬説明風景



# 京都市の「鴨川を美しくする会」が今秋に設立60周年 外来生物が増加「排せつ物で川が汚れるかも」

#京都市 +

2024年7月24日 5:05

能美孝啓



児童と一緒に鴨川の生物を採取する会員たち  
(京都市左京区)

市民と清掃活動などを行う京都市中京区の市民団体「鴨川を美しくする会」がこの秋、設立60周年を迎える。近年は「持続可能な開発目標 (SDGs)」への関心が高まっていることから小学校での授業や大学生との連携も増えているという。動植物の外来種対策にも力を入れ、鴨川本来の姿の継承に力を入れる。

同会は1964年11月に設立。河川周辺の清掃活動のほか、美化強化月間の時期には府立植物園近くの散策路「半木の道」で「鴨川茶店」(京都鴨川ライオンズクラブ共催)を開き、市民への発信も行っていった。

2000年以降は鴨川を教材に水質や生態を調べる小学生向けの課外授業も始めた。05年にはこの取り組みが小学5年生の社会科の教科書で紹介されたことで、授業の依頼が年々増え、最近では毎年6~8校で指導している。

7月5日には北大路橋近くの東岸で紫明小(北区)の4年生約40人に授業をした。水生生物の調査では児童が川の中に入り、コップを使ってエビやヤゴを捕まえて歓声を上げていた。

一方、近年注力しているのがオオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウといった外来植物の駆除だ。19年から毎年、三条通以南のエリアを中心に府と連携して取り除いている。また、ヌートリアやアライグマなどの外来動物も増えているといい、会長の古村恵子さん(73)は「排せつ物で川が汚れてしまうかも」と懸念、府との情報共有に力を入れる。

設立時と比べて活動の幅は大きく広がったが、市民を巻き込んだ清掃活動「クリーンハイク」など昔から変わらない取り組みを今後もこつこつと続けていきたいといい、古村さんは「街中に流れる川に多くの人に触れてもらい、次代につないでいけたら」と見据える。

令和6年11月19日(火) **課外授業で鴨川清掃** 市立第四錦林小 4年生40名  
(鴨川左岸一条付近河川敷北行 ⇒ 賀茂大橋 ⇒ 川端通両側歩道 ⇒ 南行)



令和6年11月26日(火) **総合学習鴨川環境学習** 第四錦林小学校・ふれあいサロン



19日の鴨川と地域清掃の感想発表



京都府鴨川条例の学習

市内

スタンダードプラン記事

## 京都市左京区の児童40人が鴨川河川敷で清掃活動「街路樹の奥に隠すようにごみ、良くない」

#京都市 + #鴨川 +

2024年11月21日 18:00

能美孝啓



鴨川の河川敷でごみを探す児童たち（京都市左京区）

まちの環境美化の意識を高めようと、京都市左京区の第四錦林小の4年生が、区内の鴨川周辺を清掃する課外授業に取り組んだ。児童たちは遊歩道から河川敷に植えられた木々の隙間までつぶさに探していた。

河川清掃や環境教育に取り組む市民団体「鴨川を美しくする会」（中京区）の協力により実施した。昨年10月、同会が児童たちに三条－四条間の河川敷に捨てられたごみを写真で紹介したところ、児童から「自分たちの手できれいにしたい」との声が上がり、今回実現した。

分たちの手できれいにしたい」との声が上がり、今回実現した。

19日に行われた授業では、児童40人が同会会員の引率の下、川端通東一条から賀茂大橋までの河川敷でごみを拾った後、川端通りの両歩道で清掃しながら元の場所に戻った。

木村彩葉さん（10）は「街路樹の奥に隠すように捨てられているごみがあり良くないと思った。できる範囲でごみを捨てないよう呼びかけたい」と振り返っていた。